



きれいな東海村をみんなでつくろう！ 令和6年度「東海村秋のクリーン作戦」

10月26日、東海ライオンズクラブと村の共催による「東海村秋のクリーン作戦」が、村内全域で実施されました。これは美化運動を通して環境をいたわる心を育み、「きれいなまち」をつくろうという取り組みです。当日は、自治会や村内事業所、各種団体など、計60団体4,888人の方々に参加していただき、可燃物1.70トン、不燃物0.63トンのごみを回収することができました。クリーン作戦は年に2回、春と秋に実施しており、次回は来年春に行う予定です。東海村が不法投棄やポイ捨てのない「きれいなまち」であるよう、今後も皆さんのご協力をよろしく願います。



▲ご意見はこちらへ

農 地を将来にわたって確保し、地域農業を維持・発展させていくために 「明るい地域農業を思い描く農業セミナー」

10月25日、東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」で開催された「明るい地域農業を思い描く農業セミナー」に、村内の農業関係者や農業委員、農地利用最適化推進委員、認定農業者、関係機関など約100人が参加しました。当日は、講師の可知祐一郎さん(魅力ある地域づくり研究所代表)が、地域で取り組める具体的な事例等について講演したほか、農業政策課の担当者が、地域計画策定に向けたこれまでの取り組みや地域計画案について説明しました。村では、地域計画の実現に向け、12月20日(金)まで「地域計画」(案)のパブリックコメントを実施しています。ぜひご意見をお寄せください。

村では平成26年度から、「地域社会と原子力」をテーマに、社会科学の視点でこれからのまちづくりを考える契機となるよう、若手研究者への支援事業を続けてきました。事業開始から10年目を迎えるにあたり、これまで支援した研究者からの報告や東海村へのメッセージを、リレーエッセーの形式でお伝えします。



東海村の経験から 住民参加のあり方を考える

新潟大学准教授 宮森 征司

このたびは貴重な振り返りの機会をいただき、ありがとうございます。

私は、平成30年度「原子力分野における住民参加に関する法制度はどうあるべきか?」、令和元年度「住民参加は、原子力に関する住民の意識にどのような影響を与えるか?」というテーマで、研究支援をいただき、原子力分野における住民参加のあり方について研究を行いました。前者では、日本国内の住民投票事例に関する調査・研究、東アジア各地域における住民参加に関する法制度の調査・研究を実施しました(こ



ちらについては、「広報とうかい」(11月10日号)に掲載の田中良弘先生のエッセーもご覧ください。後者では、住民側の視点も踏まえた住民参加の環境づくりに関して、「自分ごと化会議 in 松江」を素材として研究を行いました。その後、東海村においても構想日本の主催により自分ごと化会議が開催されたと聞いております。

現在も住民参加に関する研究は継続しており、新潟大学環東アジア研究センター(現・アジア連携研究センター)の主催で日韓共同シンポジウムを開催し、その成果は、宮森征司・金旻徳編『(国際シンポジウム)住民参加とローカル・ガバナンスを考える』(信山社)として出版されています。

研究者個人としての視点から振り返ってみると、東海村の研究助成を通じて、ヒアリング調査や事例研究の方法など、その後の私の研究スタイルの基本となる要素を勉強させていただきました。東海村の住民の方々が参加されるシンポジウムで研究発表の場をいただけたことも、社会科学の研究成果が社会に還元されることの意味について肌身を通じて考える機会となり、研究者として大きな糧となりました。東海村の皆さまには、重ねて心より御礼申し上げます。 報告書はこちら▶



【問い合わせ】産業政策課産業政策推進担当(☎282-1711 内線1269)